



登米地域の稲作通信 第7号

令和4年7月22日発行
宮城県米づくり推進登米地方本部
宮城県登米農業改良普及センター
Tel: 0220-22-6127

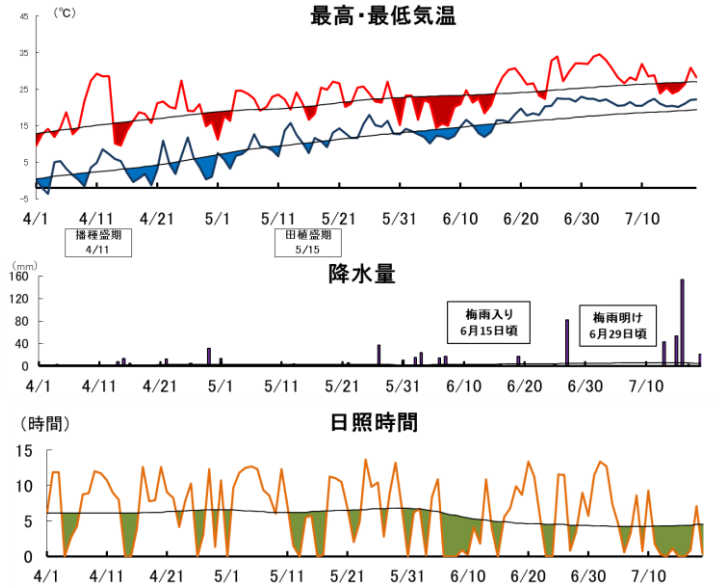


<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

【気象経過】

7月中旬の平均気温は平年より高く推移しました。降水量については、15日から16日にかけての大雨がありました。特に15日は153.5mmの降雨があり、浸水や冠水が発生した地域もありました。日照時間は平年より少なく推移しました。

観測地点：米山アメダス



【7月15日から16日の大雨に伴う技術対策について】

宮城県では前線や暖かく湿った空気の影響により、7月15日から16日にかけて大雨となり、浸水や冠水が発生した地域があります。身の安全を確保した上で、対策をお願いします。

1. 浸冠水した水田では、排水口や側溝等に詰まったゴミを除去し、早期の排水に努める。
2. 冠水や浸水した稲は体内の水分を失いやすい状態のため、急激な落水は避ける。
3. 稲に付着した泥は可能であれば動力噴霧機等で散水して洗い流す。
4. 生育が遅れ、葉色が濃くなった場合は、いもち病が発生しやすいので、ほ場を観察し、農薬散布等による防除を行う。
5. 浸水により生育が遅れた場合、イネツトムシが多発する可能性があるため、ほ場を観察し、防除に努める。
6. 黄化萎縮病が発生した水田ではいもち病が発生しやすいので、ほ場を観察し、防除に努める。
7. 白葉枯れ病は低湿地で発生しやすく暴風雨で発病を助長するのでほ場を観察し、防除に努める。
8. 生育が遅れて葉色が期待葉色値よりも濃くなった場合は追肥を見合わせる。

表1 水稲における生育時期別の冠水日数と減収歩合(%)

被害時生育段階	冠水日数(日)				備考
	1	3	5	7	
幼穂形成期	—	30	60	70	幼穂枯死が多い
出穂期前13日	25	80(70)	90(70)	100(70)	二段穂を生ず それが稔実すれば補償が見られる。
出穂期前10日	75	100(70)	100(70)	100(80)	
出穂期前7日	40	80	95(85)	100(95)	

農林省統計調査部 農林17号 ()内：二段穂が稔実した場合

「農業災害ハンドブック(農作物気象災害技術対策指針)」平成2年3月 宮城県農政部より抜粋

【移植栽培】

1 生育状況

【水稲生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培 タイプ	調査 地点	田植月日 (平年差)	栽植密度 (株/m ²)	7月11日				7月20日				
						草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉色(GM)	幼穂長(mm)	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉色(GM)	幼穂長 (mm)	
1	ひとめぼれ	Cタイプ	南方町	5月18日 (+3日)	15.0	前年比・差	68.9	446	38	0.0	77.8	428	37.5	6.9
						平年比・差	118%	102%	-0.6	-1.0	106%	104%	0.8	-69.1
2	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	5月14日 (-4日)	15.9	前年比・差	64.5	509	41	0.0	72.7	487	37.8	4.5
						平年比・差	106%	98%	-1.4	-0.9	98%	106%	1.6	-22.8
3	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	5月21日 (+3日)	16.3	前年比・差	65.5	553	42	0.0	77.9	527	40.0	3.1
						平年比・差	117%	117%	2	-1.1	111%	127%	5.2	-79.8
4	ササニシキ	Cタイプ (復活ササニシキ)	豊里町	5月12日 (+1日)	16.0	前年比・差	61.1	432	40	0.1	74.3	363	38.7	6.0
						平年比・差	106%	79%	3.5	-0.1	104%	82%	5.2	-83.7
5	だて正夢	-	迫町	5月17日 (+4日)	21.5	前年比・差	71.6	449	37	0.2	78.0	441	37.0	5.3
						平年比・差	111%	94%	0.8	-0.7	100%	93%	-1.9	-28.3
6	金のいぶき	-	登米町	5月15日	16.2	前年比・差	73.1	598	39	0.1	83.7	536	34.3	3.5
						平年比・差	113%	95%	-0.4	0.1	105%	103%	-0.8	-20.9

※栽培タイプ

Cタイプ：農業・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減；農業8成分，化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は，過去5か年（平成29年～令和3年）の平均値。

※金のいぶきは調査2年目のため，前年比のみ

7月20日現在，ひとめぼれ3ほ場の草丈は平年より長く，莖数は概ね平年並で推移しています。葉色は期待葉色値（減数分裂期：35～37）を維持しています。幼穂長は平年より短く，減数分裂期には達していません。

だて正夢は，草丈はほぼ平年並，莖数，葉色は平年を下回っています。幼穂長は5.3mmで平年より短く，減数分裂期には達していません。

2 今後の管理

(1) 生育ステージの予測

アメダスの平均気温を用いた生育ステージの予測では，管内平均出穂期は8月5日頃です。

生育ステージの予測値（7月20日現在）

移植日	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	5月30日
幼穂形成期	7/2～7/7	7/4～7/8	7/7～7/11	7/11～7/14	7/14～7/17	7/17～7/21	7/22～7/26
出穂期	7/27～8/1	7/30～8/2	8/1～8/5	8/5～8/8	8/8～8/10	8/10～8/14	8/15～8/19

※主稈葉齢予測モデル（普及に移す技術第80号）を用いた予測値。移植時葉齢を2.5葉～3.5葉として予測。平均気温は7月20日までの米山アメダスの実測値。

幼穂の長さとお穂までの日数の目安

発育過程		出穂前日数	幼穂長	葉耳間長
幼穂形成始期		25日前	1～2mm	—10cm
減数分裂期	始期	15日前	3～4cm	
	終期	10日前	8～10cm	±0cm

(2) 水管理

- ①出穂前までは間断かん水を基本とします。
- ②出穂期は浅水管理とし、その後は登熟後期まで根の活力を維持するため、間断かん水や飽水管理を行いましょ。

【高温時の水管理】

出穂後、高温登熟による品質低下を軽減するため、必要に応じて「保水管理」、「昼間深水・夜間落水管理」、「掛流しかんがい」を実施してください。

(3) いもち病対策

<7月12日 宮城県病害虫防除所>防除情報第5号より

アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況(BLASTAM 令和4年度)

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
6/27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/28	?	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-
6/29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/30	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/2	-	?	-	?	?	?	?	-	?	?	?	?	?	-	-	-	?	?
7/3	-	?	-	-	?	?	?	-	?	?	?	?	?	-	-	-	?	?
7/4	-	-	-	-	?	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-
7/5	△	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	-
7/6	△	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-
7/7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	○	○	●	-	○
7/8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-
7/9	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	-	-	●	-	-	△	●
7/10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
7/11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/12	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/13	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-
7/14	△	-	●	-	●	-	△	●	●	-	-	●	●	●	●	●	●	●
7/15	○	-	△	●	-	△	●	●	-	-	-	●	●	●	●	●	●	●
7/16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/17	△	●	●	△	-	△	●	-	-	-	-	-	-	●	-	●	-	-
7/18	○	-	●	●	●	●	-	-	-	●	●	-	●	●	●	●	●	●

葉いもち

- ・7月上旬の巡回調査の結果、県南部の2地点で本田における葉いもちの初発が確認された。
- ・7月15日～18日にかけてBLASTAMによる感染好適条件の推定では、県内の複数地点で好適条件及び準公的条件が出現している。

●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上、平均気温15～25℃、前5日間の平均気温20～25℃)が出現した日
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが、前5日間の平均気温が条件からはずれている場合
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合
-	好適条件なし	
?	判定不能	

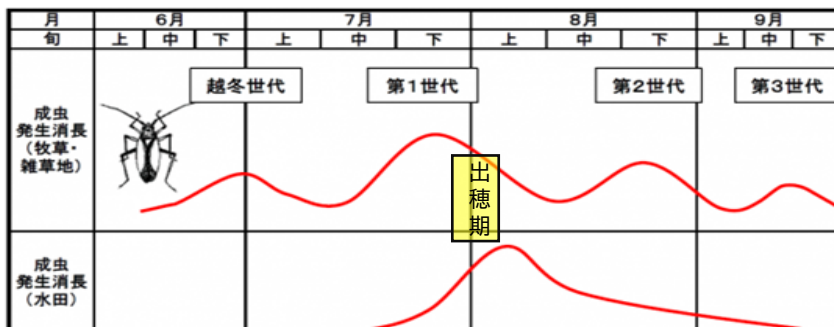
葉色の濃いほ場は上位葉の葉いもちの発生に注意しましょう。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除してください(環境保全米Cタイプで発生がみられた場合はJAにご相談ください)。穂いもちは、出穂直後が最も感染しやすいので、適期を逃さないように防除を行いましょ。

(4) 紋枯病対策

防除時期：出穂直前(穂ばらみ期～出穂期)
いもち病との同時防除が可能な薬剤もあります。

(5) 斑点米カメムシ類の防除

薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後が基本です。



【直播栽培】

1 生育状況

【水稻生育調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日		7月11日			7月20日			
						草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉色 (GM)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
1	ひとめぼれ	ブヲ耕 グレンドリル 体系	米山町 (中津山)	5月5日	前年比・差 107%	55.8	514	37.7	69.1	466	38.8	0.8
						107%	110%	2.4	95%	104%	2.3	-3.8
2	ササニシキ	ブヲ耕 グレンドリル 体系	米山町 (中津山)	4月26日	前年比・差 99%	52.7	503	37.6	69.9	493	38.2	1.3
						99%	109%	-3.1	99%	108%	-0.5	-1.5
3	つきあかり	ブヲ耕 グレンドリル 体系	豊里町 (鞆波)	4月26日	前年比・差 100%	66.0	381	39.4	85.6	353	41.1	5.1
						100%	75%	0.5	109%	83%	4.5	-49.8

※平年値は、N0.1 ひとめぼれは過去5か年(平成29年～令和3年)の平均値。

※N0.2～No.3は調査2年目なので前年比のみ。

7月20日現在、ひとめぼれの莖数は平年を下回っています。

幼穂長は、3ほ場とも平年、前年よりも短く、生育が遅れています。

2 今後の管理

(1) いもち病対策

天候や品種によっては多発することも予想されます。発生に注意!!!

上位葉の葉いもちは、穂いもちの発生源になります。穂いもちの予防防除を行った場合でも、葉いもちの病斑を確認した場合、直ちに茎葉散布剤による防除を行いましょう。また、追肥をした場合は、薬剤散布を併せて行いましょう。

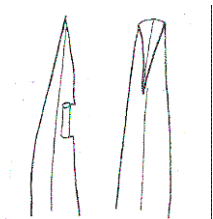
(2) イネツトムシ (イチモンジセセリ)

イネツトムシの被害は大きく、防除の対象になるのは8月上旬頃に発生する第2世代幼虫です。

防除適期：第2世代若齢幼虫発生盛期(7月下旬～8月上旬)

株当たり0.5個以上のツトが見られる場合は防除を行いましょう。

防除適期は若齢幼虫期の短い期間に限られます。若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意してください。



図：若齢幼虫の形成するツト

(3) 斑点米カメムシ類の防除

出穂期は移植栽培より7～10日遅くなりますので、防除時期を逃さないよう注意しましょう。薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。

(4) 追肥

基肥一発肥料施肥していても急激に葉色が淡くなってきた場合は、減数分裂期追肥を行いましょう。

表 追肥の目安

肥料	窒素成分 含有率 (%)	施用時期	施用現物量 (化学肥料窒素成分量)
NK化成C68号	16.0	減数分裂期(出穂10～15日前)	10kg/10a (1.6kg/10a)

6月～8月は「農薬危害防止運動」期間です。農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。